

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	372300327		
法人名	特定非営利活動法人 ともにあゆむ会		
事業所名	グループホームぶどう苑 (第2)		
所在地	岩手県花巻市大迫町大迫1-4-55		
自己評価作成日	平成24年10月27日	評価結果市町村受理日	平成25年2月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kihon:true&JigyosyoCd=0372300327-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(公財)いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成24年11月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「笑わせる事・ほめる事で元気にさせる」をモットーに利用する方の生き甲斐を今以上に強化し、生きる喜びや楽しみを利用者が感じてもらえるよう追求しております。
職員には介護技術向上の為、資格取得を奨励し勉強会の実施や薬剤師を招いてクスの正しい使い方等、技術向上に力を入れております。
日頃から防災意識を高め火災や地震等を想定し避難誘導訓練を定期的実施しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

●3委員会(食事検討・レクリエーション・レベルアップ)に、更に、今年から「気付きプロジェクトチーム」をつくり、利用者の隠れた才能・思い・悩み等を素早く確実にキャッチして、生きる喜びや楽しみを追求し、家庭の延長である暮らしを考え、理事長をはじめ、全職員努力して。●地域のボランティアの講師(書道・郷土料理・カラオケ)が定期的に来訪して、指導してくださり、生きがいと楽しみを頂いている。●マッサージ師が週2回来訪し、マッサージと機能向上のアドバイスをしてくれる。●法人の方針でもあるが、日に一度は外の空気を吸い、気分転換と健康管理に留意している。●町内や地域内のイベント(芸能祭・お祭りの山車造り)等々や小・中学校、保育園との交流が、非常に活発で活気もある。●職員の一層のスキルアップとケアレベルの向上を目指し、勉強会の実施を頻繁に行い、法人代表者と職員が一体となり、努力がなされている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基にユニットの年度目標を決め、それを見やすい場所に掲示している。職員が目標を毎朝唱和する事により理念を共有し実践につなげている。	ホームの理念「一人ひとりの人格を尊重して、その人らしく生きていくことを支援します」を基に、年毎に立てる目標「笑う・ほめるで元気になる」を朝のミーティング時に大きな声で唱和し、互いに意識を高め合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	苑の行事に地域の方を招待し参加していたっている。また、地域の文化祭に利用者の作品を展示する等交流を図っている。	恵まれた周囲の環境をフルに活かし、町内会、保育園、小・中学校との交流が活発である。祭りの山車づくりの手伝い・学校の文化祭見学・町の芸能祭への全員参加(歌・踊り)・中学生のホーム清掃受け入れ・定期的なボランティアの受け入れ(書道・カラオケ・郷土料理)など、積極的な交流で、ホーム内は活気に満ちている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症を地域の方々に理解して頂く為に盆踊りなどの苑の行事を通じ、実際に交流する事によって地域の方々に理解や支援を頂ける様にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の行事と運営推進会議を同時に開催するなど直接活動を見て頂き理解を深めるよう努めている。	事業所の様々な活動日、今年度は(民謡教室・敬老会)に推進会議を合わせ開催し、全委員に会議の前に見学をしていただき、事業報告やヒヤリハット報告等を行い、意見交換をしている。マナー化にならない様に委員の方々に資料を配付し、常に意見・質問を頂けるよう、気配りがなされている。	住民代表・包括支援センター・社協・市の担当者・家族代表等が会議の構成員となっているが、更に消防・警察・民生委員等への声掛けにより、天災・人災・福祉等も含めた幅広い分野での活発な意見交換が、なされることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者に色々な相談をしたりと、日常的に連絡を取り合っている。地域ケア会議にも出席し、情報交換を行なっている。	毎月のケア会議で、連絡や情報交換をしているが、事業所の近くに役所(市の支所)があるので、認定更新等の機会等には迅速に、直接担当者に暮らしぶりやニーズの具体を伝え、連携を深めている。時には、市の担当者からホームへの入居希望者の情報提供があることもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は法令に関する勉強会等で理解し実践している。玄関は日中施錠せず、他ユニットと協力して見守りを行い安全を心がけている。	職員の見守りの方法を徹底し、また、一人ひとりのその日の気分や状態を細かくキャッチすることで、施錠等は、日中は行ってない。10月に花巻市内での身体拘束についての研修会があり、職員が参加して、内容はスタッフ会議で発表し、職員全員が共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	施設内での介助に虐待に当たる対応がないか、常に確認し、発生防止に取り組んでいる。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぶどう苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学び活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に料金やサービス内容を十分に説明し、利用者、家族に了解を得た上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は日常の会話の中や家族の来苑時に、要望を聞くように心がけている。また、要望があった場合には会議にかけ、対応している。	家族には受診時や面会や会計時に来訪された際に、常に問いかけ、何でも言って頂けるような雰囲気作りに留意している。出された意見・要望は、ミーティング時に話し合い、反映させている。要望としては、体調・健康管理に関することが大半で、事業所では前向きに受け止め、活かすように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の主任会議やユニットごとの会議で職員の意見を聞く機会を設け、良いアイデアは日々の業務に取り入れるようにしている。	委員会が中心になって勉強会を自主的に行っている。主任会議や、ユニット会議では、出席者全員に発言の機会を設けている。トイレの引戸・二階の温度調整・ホールの椅子の足の改善や、昼食後の休憩時間の改善など、職員の希望等を認め、積極的に意見の提案をして貰い、反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	食事検討委員会、レクリエーション委員会、レベルアップ委員会を作り、職員のやる気と意見や提案を自由に出せる機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修会、勉強会に参加する機会を設け、参加後は会議などで報告している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他法人と交換研修を行った際にお互いに情報交換している。また、祭りの招待を受け利用者と一緒に出掛ける機会を作り交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査の段階で、本人からも困っていることや要望等を聞くように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査の段階で家族から聞き取り調査を行い、サービス利用開始後も家族と連絡を取り合い、関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所希望がほとんどだが、空きがない場合は、併設している小規模多機能施設のサービスも勧めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事後の片付けや、配膳、おやつ作りを一緒に行ったりする中で、利用者に教えていただく事もある。また、職員の手の行き届かない所の掃除を引き受けてくれる利用者もいる。			
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来苑された際には、談笑できる時間を大切にしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が希望した時にない合電話などの支援を行っている。また、大きなイベントの際にはご家族や近隣の方々に参加して頂ける様促している。	地域のボランティア(書道・郷土料理・カラオケ・紙芝居)による講師に定期的に来訪して頂き、賑やかに交流が行われたり、中学生のホーム内清掃活動の受け入れや、保育園児との交流や、機能向上のためのマッサージ師の来訪等々、盛り沢山な交流がなされ、活気に満ちあふれている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しがちな利用者は、職員が間に入り関係作りが出来る様に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等により、退所した場合でも、職員のお見舞いや、家族への連絡等で関わりを持っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	レク活動を通じ、それぞれの利用者の好きな事、得意な事を見つけ、毎日の生活に結び付けるよう努力している。	ほとんどの方は思いを表せる状況である。今年からは、「気付きプロジェクトチーム」もつくり、利用者の個性を更に見極め、力を伸ばしていくよう努力している。ぬり絵を描いて、チャリティーショーに出品したり、誕生日にはビールで乾杯したり、喫煙(職員が見守り)する方もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査の際の聞き取り調査に加え、居室担当者が中心となり、利用者との会話の中で情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタル測定を行い、健康状態の把握に努めると共に、毎日のレク活動は心身の状態に応じて対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一回のスタッフ会議を開き、介護計画に反映させている。また、家族が来苑された時に合わせ家族との話し合う機会を設け、意見、要望を介護計画に反映させている。	毎月のスタッフ会議で、利用者の状況把握をしている。家族が来訪された際には、出来るだけ、話し合いを持ち、意見・要望を聞き、総合的にケース検討し、職員も意識統一して、介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は毎日記入している。 ノートを利用し、職員間で情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族と話し合い、その時々ニーズに柔軟に対応するようになっている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぶどう苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア及び講師の方を招き、色々な教室、合同レク等を楽しむよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係を継続出来る様に、居室担当職員が情報提供書を作成している。	入居時に、かかりつけ医をホームの近くの病院に変更された方もいるが、ほとんどの利用者は、以前からの継続受診をしている。家族と通院する方には、居室担当職員が、日常の情報提供書を作成し持参して頂いている。職員が同行する際にも、同様に医師に状況を連絡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員と管理者、職員が連絡を取り合い利用者の状態を把握し、スムーズに看護を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合、職員が見舞いに出かけたり、利用者の状態を病院関係者から聴き、家族と情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期に於いては、家族に取り組んでいく方向であることは話している。職員もスタッフ会議に於いて話し合いをしている。	入居契約時、医療面の必要がなければ、ターミナルまで対応可能であることを説明し、同意を得ている。重度化に向けた指針を作成し、職員もスタッフ会議の都度、話し合いを行い、外部研修も代表が受け、それをスタッフ会議で発表し、全員が共有するよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習を受け、AEDを使用した勉強会等を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者も参加しての避難訓練を実施している。運営推進委員会を通じて地域の方々にも協力を呼びかけている。	法人全体で、2か月に一度、避難訓練を実施している。消防署には年1～2回参加して頂き、その他は報告したうえで、指導を頂いている。ユニットごとに夜間を想定した避難訓練も実施している。2階からの非常階段を降りる際の時間測定も実施している。非常食も用意してある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導などは、それぞれの利用者に合わせた声掛けを行い、パット確認などは利用者に配慮し、人目につかないよう気をつけている。	3つの委員会の他に、今年から「気付きプロジェクト」を編成し、利用者の小さなサインを見逃さないように、「利用者さんノート」に記入し、痛さ・痒さ・不快さ・つらさ・怖さなどを全員で共有し、誇りや、プライバシーを損ねないような、更にきめ細かい支援に努力されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	習字、手踊り、カラオケ、民謡、料理など色々な教室を行い、利用者の好みで参加できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩やレク活動、入浴日とその日一日の流れを強制することなく、本人の希望を聞き入れながら、一日を過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	床屋や化粧品などは本人の希望通り家族や職員が支援している。衣類はアイロンをかけて着る方、職員と相談しながら服を選ぶ方等おしゃれを楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑の野菜や旬なものを取り入れた料理で季節感などを。誕生会には希望メニューを入れて楽しんで頂いている。食事の準備や片付けも無理なく利用者と職員で一緒に行っている。	1週間分の献立を職員が交替で作成し、食事検討委員会で内容等のチェックをしている。2か月に1度は、野外での食事を試みている。誕生会には希望食を準備し、飲める方はビールで乾杯し、時にはユニットごとにカレーを作り、「味っこ比べ」をしたり、また出前を取って楽しんだりして、楽しく食べられるような食事支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や好き嫌いを把握し、体調管理には気を付けている。入浴後や定時の水分補給以外にも声掛けし、摂取したい方や居室に水筒を置いている方には随時提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自力で出来る方にも声を掛け、介助の必要な方にも出来るところは、してもらいながら口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し、定時に声掛け誘導を行い、排泄支援を行っている。	トイレ排泄をもとに、利用者ごとにパターンを把握し、更に、気づき・目配りによる随時の誘導もさりげなく行われている。紙パンツ・パット類も本人に合わせて検討されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを行い、便秘薬の服用、また起床時の冷たい牛乳飲用に対応している。散歩や、毎日の体操に便秘体操も取り入れ、出来るだけ身体を動かすよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に入浴日は決まっているが、本人の体調や希望により、随時調整を行っている。入浴を拒む利用者には、時間を置いて再度声掛けしたり、異性介助を嫌う方には同性で対応している。	週3回の入浴パターンであるが、利用者のその日の希望と体調を確認し、入浴していただいている。異性による介助を嫌がる方には、同性にて(介助)対応している。職員と会話をしながら、安心して入浴出来るように気配りをし、支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	うまく入眠できないような時は、しばらく話し相手をしたり、温かい飲み物を提供してみたりと個々に工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ノートを一人ひとり作成し、職員が共有している。薬の変更や受診時、医師からの指示を記入して、服薬後の経過に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハビリを兼ねて、食事の配膳、下膳、食器洗い、テーブルふき等を役割を持って生活している。色々な行事の参加も促し意欲の向上、気分転換が図れるよう支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや外食、地区内での行事に参加するなど、出来るだけ戸外に出かける機会を設けている。	1日に1度は、外の空気を吸って頂きたいということで、近くの散歩・買い物・ドライブ・町内のイベント等に出かけている。また、家族と通院時に外食をしたり、個々に嗜好品を購入希望する方には、職員が付いて行き、購入して頂くこともある。盆・正月の帰省(希望)を聞いても、あまり希望はされていない。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぶどう苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要なものがある場合は施設の一時立替金で購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望する利用者には勿論のこと、外部の方、家族へのつながりも大事にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の行事の写真などを貼りだすコーナーを設け、廊下には手芸品や習字などの作品を飾っている。また、ホールには季節を感じられるものの飾り付けを行っている。	吹き抜けの1階の広いホールには、太い杉材の梁と柱が目付き、素朴なぬくもりを感じる。天窓からの日差しがほど良い明るさで、落ち着いた雰囲気を出している。 2階は正面のカウンターと広いホールから外の景色が広々と眺められるレストラン風の落ち着いた雰囲気である。廊下には様々なイベント時の思い出のスナップ写真や習字などの作品がたくさん貼られ、活発なホーム内の活動が思い浮かぶ。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者同士を組み合わせテーブルなどの配置替えをしたり、ホールのテレビなどの配置替えもしたり、楽しく過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	日頃から使い慣れた時計や鏡などの日用品を入居の際に持ち込んで頂いている他、人形、写真など思い思いに飾って頂いている。中にはお位牌を持込拜んでいる方もいる。	部屋(居室)の入り口には、利用者の名前と居室担当の職員の名前が明記されてある。居室内はフローリングにベットで、それぞれ思い出のある人形・写真・鏡などを飾り、温かい雰囲気が出るようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室など利用者がわかりやすいよう、マークや文字を見やすい位置に配慮し、自立した生活がおくれるよう支援している。		